6.市民活動・地域交流拠点の計画に際した立地場所と必要条件の相互比較の指標

市民活動・地域交流拠点としての必要条件

機能・サービス	空間・規模	安全・安心
◆テーマ型市民活動／地域主体イベントの支援・連携機能 ◆メディア・ライブラリー・ITライフスタイルのサポート拠点機能 ◆子ども・学生・ファミリー・シニアなど多世代交流と北勢エリア交流の相互機能 ◆上記の機能・サービスを含めたみんなの「サードプレイス」	◆公有地内での建設に必要十分な面積 ◆屋外公共空間・施設との連携利用が可能な空間 ◆中心市街地の顔／賑わいづくり・街並みや都市景観軸へ寄与する立地	◆平時／災害時の防災・減災インフラと連携可能な場所 ◆地域防災計画、BCP、帰宅困難者受入れに貢献する立地

立地場所の必要条件

市民活動との連携	まちづくり・都市整備	機能・サービス	減災・防災	コスト	敷地確保
◆市民主体の多様な社会活動（例；JAZZ、映画、市ほか）のサポートおよび連携活動拠点に適した場所 ◆将来にわたり市民活動の中心的存在（シンボル、コミュニティベース、市民文化）として施設を育てていくために相応しい場所	◆四日市市のまちづくり活動・行政施策と密接に連携を形成できる場所 ◆鉄道利用者・公共交通ユーザーへの視認性に優れ外部発信効果に優れた場所 ◆中心市街地の徒歩回遊性の新たな基点となり滞留強化に寄与する場所 ◆街の歴史や地域の文化、場所の履歴（例：四十三番目の宿場、旧東海道、萬古焼、茶文化）などを伝え表現できる場所	◆ITメディアを市民生活へ活かすための幅広いリテラシーサポートを提供する場所 ◆子どもから学生、高齢者まで幅広い市民が利用可能なライブラリー・アーカイブ・交流会議室などが複合利用できる場所	◆地震・火災・津波・洪水などの影響が小さい場所 ◆平時／非常時の市民ボランティア活動のサポート拠点となれる場所	◆ 長期的な総コストが低額となる場所（地下埋蔵物、周辺環境、インフラ整備の必要性ほか）	◆必要規模の建設と屋外利用との連携・相乗効果が期待できる場所